

【課題名】

原子力施設の廃止措置を統括するグローバル人材の育成

実施期間: 令和3年度～令和5年度

【研究代表者・所属機関】 岡本孝司 ・ 東京大学

【参画機関】 エネルギー総合工学研究所

【目的】 戦略的な観点を持って廃止措置を推進していくスキルを持つ人材, すなわち, 廃止措置に係る技術的な側面に加え, 原子力利用におけるバックエンド分野の社会における重要性及びそれが与える社会的影響を理解している者であり, 海外の良好事例を積極的に取り入れ, 効果的かつ効率的な廃止措置推進を可能とする人材の育成を目的とする。

【課題概要】

目的とする人材を育成するために次の3つのプログラムを実施する。

(1) 戦略的観点を持つ廃止措置ゼネラリストの育成のための講義と実習

廃止措置全般にわたる知識及び戦略の構築並びにプロジェクト管理の習得を目的として, 次の講義及び実習を実施する。

- ① 廃止措置で必要な廃止措置技術に係ること
- ② 戦略の構築に必須な微分析, 環境分析, リソース分析に係ること
- ③ 状況の変化に対応するスキル(グレーデッドアプローチの適用)に係ること

* 講義及び実習はオンラインで実施する計画である

(2) 国内視察

廃止措置を実感するために最も効果的である国内実施状況の視察を実施する。原子力発電所, 核燃料サイクル施設等の廃止措置現場の視察を行う。

(3) 海外研修

海外研修として, 先行する海外の廃止措置の状況視察及び現地技術者との廃止措置の戦略に係る事項について議論及び情報交換を実施する。

* 視察及び研修は現地を検討しているが, 状況によってはオンラインの可能性もある

目標とする人材像

廃止措置に係る
工学的な知識

原子力全般にわたる知識
廃止措置の特徴
廃止措置に適用する技術
廃止措置安全の考え方

廃止措置に係る
社会科学的な知識

プロジェクトマネジメント
社会分析技術
事業の最適化
経営戦力

廃止措置の戦略

グレーデッドアプローチの適用

戦略的な観点を持って廃止措置を
推進していくスキルを持つ人材

【課題名】

技術的専門性を要する社会課題の解決に寄与する実践的人材の育成

実施期間：令和3年度～令和5年度

【研究代表者・所属機関】 大場恭子・長岡技術科学大学

【参画機関】 福島工業高等専門学校、日本大学法学部

【目的】

本事業の目的は、これからの原子力を担う人材である全国の高等専門学校及び大学の学生を対象とし、関係機関の連携のもと、技術的専門性を要する原子力分野における社会課題について、技術的専門性をもたない一般の人々と協働し、自ら主体的に学び、考え、他者と話し合うことの意義を理解するとともに、それらを通じて課題を解決できる能力を育成することである。

【課題概要】

本事業は、関係施設の立地やその運転、処分の在り方が社会課題になっている原子力の分野において、既に行われている施策を俯瞰したうえで、その問題点を克服すべく、これからの原子力を担う人材に対し、以下の①～④を実施するものである。

本事業を通して、技術的専門性を要する社会課題に対し、自らがもつ専門的知識に基づきながら、技術的専門性をもたない一般の人々と協働し、課題の解決を目指す意義を理解するとともに、課題を解決できる能力を育成する。

- ① 討論型世論調査(Deliberative Poll; DP)を参考にした「原子力分野における社会課題を学び、考え、話し合う場」を、全国の高等専門学校および大学で実施する。実施にあたっては、課題についての事実関係を多角的かつ公平な観点から提示する。
- ② 原子力分野における社会課題に対し、組織や地域で実際に行われている／いた取り組み及びその効果等について、現場の担当者から直接伺い、社会課題に対する知識を深化させると同時に、グッドプラクティス／バッドプラクティスを調査する
- ③ ①および②の参加者から希望者を募り、①で扱っていない原子力分野における社会課題を選定し、高専生・大学生が、DPを参考にした「原子力分野における社会課題を、学び、考え、話し合う場」を設計する
- ④ ③を実施する

① 学び、考え、話し合う場の設置

討論型世論調査(Deliberative Poll: DP)を参考にした原子力分野における社会課題を学び、考え、話し合う場を、全国の高専および大学で実施する

② 課題の現場における取り組みの調査

原子力分野における社会課題に対し、組織や地域でどのような取り組みがなされているのかや実際に行われている取り組みの効果等について、現場の担当者から直接伺い、社会課題に対する知識を深化させると同時に、グッドプラクティス／バッドプラクティスを調査する

③ 学び、考え、話し合う場の設計

①および②の参加者から希望者を募り、①で扱っていない原子力分野における社会課題を選定し、高専生・大学生が、「DPを参考にした原子力分野における社会課題を、学び、考え、話し合う場」を設計する

④ 学び、考え、話し合う場の実施

技術的専門性を要する原子力分野における社会課題を、技術的専門性を持たない一般の人々と協働し、自ら主体的に学び、考え、他者と話し合うことを通じて解決できる能力をもつ人材の輩出

